

【目次】

1. メールレポート「友愛労働歴史館たより」が第100号を迎えました、11月16日！
2. 荒木幹郎氏を招き第5回政治・社会運動史研究会を開催、11月4日！
3. 赤松常子の実家・徳応寺で「徳応寺“冬一番コンサート”2015」、12月6日！
4. 企画展「赤松常子」は11月30日で閉会します！

1. メールレポート「友愛労働歴史館たより」が第100号を迎えました、11月16日！

友愛労働歴史館が情報提供・PRのためインターネット上で発信しているメールレポート「友愛労働歴史館たより」が、本号で100号となりました。

メールレポート「友愛労働歴史館たより」は、2009年12月25日に第1号を発信。友愛労働歴史館が新装オープン（2015年8月1日）直後の8月3日に、第52号（写真）を発信しています。



メールレポート「友愛労働歴史館たより」は原則、月1~2回の頻度でメールアドレス登録者に発信しており、友愛労働歴史館関連ニュースを掲載している他、「日本労働会館物語」を随時、連載しています。直近の「日本労働会館物語」第56回（2015.06.25 発信）は、「日本労働会館に結集した人々―村井知至―」でした。

同連載「日本労働会館物語」は、明治27（1894）年に米国ユニテリアン協会により建設されたユニテリアン教会・惟一館（ジョサイア・コンドル設計）、総同盟が昭和5年に買収し本部会館とした



日本労働会館、昭和11年に日本労働会館（旧惟一館）の横に建設された友愛病院・アパートメントハウス青雲荘（設計者：山口文象。写真参照）、戦後（1949年）の総同盟会館・全織同盟会館、1964年の友愛会館（9階建）とその後に建設されたホテル三田会館、友愛会創立100年を記念して建替えられた2012年の新しい

友愛会館（16階建）まで、四代の会館の120年余の歴史を紹介しています。



また、同連載はユニテリアン教会・惟一館で創立された社会主義研究会（後の社会民主党）や友愛会（後の総同盟・同盟。現在の連合）の紹介も行っており、さらにゆかりの人々についても紹介しています。今までに登場した人物は金子堅太郎、アーサー・メイ・ナップ牧師、福澤諭吉（写真）、クレイ・マッコレーイ牧師、



ジョサイア・コンドル（建築家）、片山潜、安部磯雄（写真）、岸本能武太、村井知至、鈴木文治、松岡駒吉、西尾末広、赤松常子、阿部静枝、武藤光朗らです。

なお、日本労働会館について理解を深めていただくためメールレポート「友愛労働歴史館たより」第1号に掲載した『財団法人日本労働会館設立経過報告』（昭和6年・1931年）の中の「惟一館の歴史」を再掲します。

「惟一館の歴史」

「惟一館は、自由基督教の伝道を目的とし、明治27年に建設されたものであるが、爾来40年間、日本の社会運動に非常な貢献をいたしました。我国の社会思想、社会運動は、この建物より出でたと云うも過言ではないのであります。即ち福沢諭吉、片山潜、安部磯雄、吉野作造の諸氏は、この惟一館と密接な関係を有し、自由主義、社会民主主義、無政府主義、共産主義等々の思想も、この建物を中心に転回いたしました。我国最初の無産政党たる安部磯雄氏等の社会民主党は、明治34年結党直後に解散を命ぜられました。その結党準備は此処で行われました。



鈴木文治氏により大正元年8月、此処で創立された友愛会は、現在、日本労働総同盟として活動して居りますが、周知の如く我国労働組合の左、右、中間各派の主流は、労働総同盟より分裂したものであり、この各派組合を中心に、各無産政党が対立発生いたしました。この外、農民組合運動、労働者教育運動も、源を此処に発していることは、既に御承知のことと存じます。

斯くの如き、由緒ある建物でありますし、現に20年来一貫して、我労働総同盟は此処に本部を持ってきたのですが、之を総同盟の所有たらしめる様しばしば奔走いたしました。然し種々なる障害に依つてその実現を見るに至りませんでした。今回日本労働会館として、事実上、総同盟の手に収められたのであります。」

2. 荒木幹郎氏を招き第5回政治・社会運動史研究会を開く、11月4日！



友愛労働歴史館は11月4日（木）午後、元武蔵野市議会議員の荒木幹郎氏を報告者に招き、第5回政治・社会運動史研究会を開催しました。同研究会は、友愛労働歴史館の調査・研究活動の一環として設置したもので、「日本の民主的社会主義政党、並びにそれと関連する社会運動史の調査・研究」を目的としています。

第5回研究会は荒木幹郎氏を報告者に11月4日（水）13:30～15:30の間、当館研修室において共通テーマ「民社党時代を語る」で行われました。研究会は原則、非公開ですが、友愛労働歴史館や旧民社党の関係者らが参加しました。研究会は予め荒木氏に提出していた質問に基づいて行われ、1時間余に亘って報告を受けました。その後、質疑応答・意見交換を行いました。

3. 赤松常子の実家・徳応寺で「徳応寺“冬一番コンサート”2015」、12月6日！



友愛労働歴史館は現在、赤松常子没後50年を記念して企画展「赤松常子—婦人運動・社会運動に生きた生涯—」（2015.07.21～2015.11.30）を開催中ですが、その赤松常子の実家・徳応寺（山口県周南市川端町2-22）で、恒例のコンサート（「Tokuouji Live2015」）が12月6日に開催されます。今年の「Tokuouji Live2015」は、「徳応寺“冬一番コンサート”2015」と題し、増田俊郎& Cock4が出演します。なお、11月12日（木）午後、徳応寺の赤松泰城氏ら3名が来館され、開催中の「赤松常子」展を見学されました。

4. 企画展「赤松常子」は11月30日で閉会します！



開催中の企画展「赤松常子—婦人運動・社会運動に生きた生涯—」（2015.07.21～2015.11.30）は、11月30日（月）で閉会いたします。まだご覧いただいていない皆様は、ぜひ期日までにご覧ください。

なお、参考に「赤松常子」展の開催挨拶（徳田孝蔵友愛労働歴史館館長）、赤松常子略年譜を掲載いたします。また、赤松常子は叔父に与謝野鉄幹、叔母に与謝野晶子、社会運動の同志に阿部静枝、宮崎白蓮らの歌人がおり、若いときから短歌に親しんでいました。そこで赤松常子の短歌（社会詠）の一部を掲載いたします。さらに赤松常子逝去の折に寄せられた阿部静枝、宮崎白蓮の追悼歌も紹介いたします。

企画展「赤松常子—婦人運動・社会運動に生きた生涯—」開催挨拶

2015年7月21日・友愛労働歴史館 館長 徳田孝蔵

「労働運動のナイチンゲール」と慕われた赤松常子（1897. 8. 11～1965. 7. 21）は戦前の総同盟・社会民衆党系の活動家で、戦後は全織同盟（現UAゼンセン）を母体に社会党・民社党の参議院議員として、また社会運動家として、その生涯を婦人解放運動・社会運動に捧げました。

2015年は赤松常子没後50年に当たります。これを記念し友愛労働歴史館は企画展「赤松常子—婦人運動・社会運動に生きた生涯—」（2015. 7. 21～2015. 11. 30）を開催いたします。

赤松常子は明治30（1897）年8月11日、山口県・徳応寺で赤松照幢・安子の長女として誕生し、生涯を仏教者として過ごします。大正4年、父とともに被差別部落に住み込み、解放運動に取り組みます。その後、上京して総同盟に入り、また社会民衆党に参加し、労働運動・婦人解放運動に取り組みます。戦後、社会党、総同盟の結成に参加。1947（昭和22）年、参議院議員に当選し、世界連邦建設運動など幅広い活動に取り組みました。1965（昭和40）年7月21日に成仏。

「赤松常子」展では第1部「赤松常子・その人と生涯」、第2部「婦人解放運動に取り組んだ赤松常子—戦前の労働運動・社会運動」、第3部「政治活動、婦人活動家として生きた赤松常子—戦後の労働運動・社会運動」で、赤松常子の労働運動・婦人解放運動・社会運動について紹介・解説いたします。また、第4部「赤松常子の短歌、ゆかりの歌人たち」では、赤松常子が残した社会詠短歌を紹介するとともに、ゆかりの歌人として与謝野鉄幹（叔父）・与謝野晶子（叔母）、阿部静枝（社会民衆党・阿部温知夫人。「理知の歌人」。評論家、社会運動家）、宮崎白蓮（社会民衆党・宮崎龍介夫人。「流転の歌人」。世界連邦などで活躍）を紹介いたします。本企画展で仏教者として、また労働運動家として、多彩な社会運動に取り組んだ赤松常子についての理解を深めていただければ幸いです。」

<赤松常子の略年譜>

- 1897（明治30）年 8月11日、山口県、徳応寺で赤松照幢・安子の長女と誕生。
- 1915（大正04）年 父・赤松照幢とともに特殊部落に移り、同和運動に取り組む。
- 1921（大正10）年 京都女子専門学校を中退し、労働運動に取り組む。
- 1923（大正12）年 関東大震災で上京、賀川豊彦の救済活動を助ける。
- 1925（大正14）年 総同盟本部に。マクドナルド女史の親隣館女子夜間学校で教師も。

- 1927 (昭和 02) 年 赤松明子 (義姉) らと 6 月 24 日に労働婦人同盟創立。婦人部機関誌『労働婦人』創刊。山一林組争議、野田醤油争議などに参加。
- 1931 (昭和 06) 年 社民婦人同盟の阿部静枝らと婦人参政権獲得闘争などに取り組む。
- 1932 (昭和 07) 年 4 月、社会民衆婦人同盟分裂。8 月、社会大衆婦人同盟を結成。
- 1940 (昭和 15) 年 総同盟解散。赤松常子、苦難の道を歩む。
- 1945 (昭和 20) 年 10 月、労働組合組織懇談会・日本社会党結党協議会に参加。
- 1947 (昭和 22) 年 日本社会党から参議院議員に (婦人当選者中最高得票。三期連続)。
- 1948 (昭和 23) 年 芦田内閣で厚生政務次官に。8 月、世界連邦建設同盟結成に参加。
- 1950 (昭和 25) 年 世界連邦アジア会議、ヨーロッパ社会主義インター大会に出席。
- 1961 (昭和 36) 年 日本婦人教室の会 (日婦の会) 発足、赤松常子は会長に。
- 1965 (昭和 40) 年 7 月 21 日、赤松常子往生。行年 68 歳。没後、正四位勲二等。

赤松常子の短歌 (社会詠)



赤松常子は生前、短歌誌『橄欖』『樹木』などに寄稿していました。その作品数は不明ですが、500 首に上るとされます。しかし、短歌集にまとめられ、出版されることはありませんでした。以下に赤松常子の短歌の一部を掲載いたします。また、盟友にして短歌仲間の阿部静枝、

宮崎白蓮の追悼歌も紹介いたします。

刑務所に母ある子等も交りたれどかげなき瞳の一樣に明るし
 夜の村の演説会は蛙なく音のしげくして言葉ききとれず
 わが手紙読み終ふことが惜しくしてしばしを待つと女囚の便り
 一途なる選挙の合間に歌なして砂漠のごとく心かわけり
 古戦場たづめる思いに野田へ来ぬ四昔前の大争議のあと
 半年を機械止まりて無為にみし工員ら涙ぐむ動き出しし今
 新しく繊維労組に育ち伸び世を見る眼持ち村に帰へる娘ら
 デモの列に薬缶から水呑みながら歩をゆるめざり婦人労働者
 遠き里と思ふ『世界連邦』をたぐりよせつつ会議はすすむ
 索寞の廢園のみち曲り来て桜ひとつと咲くに向き佇つ
 秋いよいよ深まりゆけば悔恨の過去しみじみとほろにがくして



赤松常子への追悼歌

草中の野花に敏く目をとめて愛しみし人高く生きつつ 阿部 静枝
 なつかしき面影ばかり胸にしてのこる命のさびしや今宵 宮崎 白蓮

「人間の尊厳、進歩と発達のために」



発行：友愛労働歴史館 責任者：徳田 孝蔵 担当者：間宮悠紀雄

〒105-0014 港区芝 2-20-12 友愛会館 8F TEL050-3473-5325

Eメール yuirodorekishikan@rodokaikan.org HP <http://www.yuirodorekishikan.com>

唯一館から 121 年、友愛会から 103 年